

# 防災

## 明日をまもるナビ (28) どう伝える？ 子どもへの防災教育

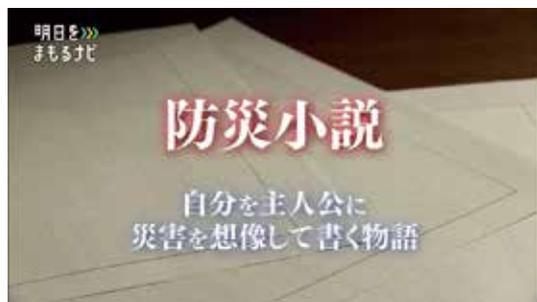
放送日：2021年12月12日 放送時間：45分



対象校種 小学校4～6年 中学校 高校

対象教科 特活 総合 国語

### この番組の良さ



#### ● 子どもが自ら考える防災教育

文部科学省「学校安全の推進に関する計画に係る取組状況調査(平成30年度実績)」によると、「防災教育を指導している」と回答した学校は100%近くになりました。ただし、その内容は年に数回の避難訓練をしているだけという学校が多く、教科指導や総合的な学習の時間等で、防災教育に取り組んでいる学校は少ないことがわかります。「避難訓練＝防災教育」という認識でよいのでしょうか。子どもたちは災害に遭遇した時、自分の命を守ることはできるのでしょうか。本番組では、子どもが自ら考える防災教育の取組を紹介しています。防災小説の交流を通して、さらに防災意識を高めて学び合う子どもたちの姿を見ることができます。

#### ● 正常性バイアス等からの脱却

日本は、自然災害の多い国です。どの地域においても、想定外の大きな災害に遭遇する可能性があります。「この程度なら大丈夫。」という意識はありませんか。その正常性バイアス等によって、防災への備えや避難行動が遅れ、命を失うこともあります。本番組は、「もしも自分に災害が起きたらどうするか。」を想像し、表現することを通して、子どもたちの防災意識を高めることができます。

### 番組活用のポイント

#### ● 防災小説を書くことで気づく備え

防災小説は、高知県の中学校で始まった取組です。この取組は、全国の中学校を中心に広がっている注目すべき防災教育です。防災小説は、自分を主人公として、日常生活の中で突然起きる災害を想像しながら書く短い物語です。自分に起きる可能性のある災害を想像することは、自分ごととして災害と向き合っていることにつながります。災害時、自分はどのような気持ちになるのか、どのように行動するのか、家族との連絡手段等、自分の生活に即した防災について考える学習で、本番組を活用することができます。番組内では、防災小説の書き方について、わかりやすく説明されており、生徒の作品も多数紹介されています。部分視聴しながら、防災小説を書く学習展開へつなげる活用もできます。

#### ● 自助から共助の心へつなげる学び

災害時に自分の命を守る学習は、多くの学校で行われています。災害時に自分の命を守ること、安全に避難する力は、大切な生きる力です。しかし、自分の命が助かった後に起こることは何でしょうか。災害によって破損した物の片付けや避難所での生活、家族や友人の安否確認に不安な日々を過ごすことも考えられます。身の安全は個人で守ることはできますが、安心感とは人とのつながりの中から生まれる感情です。そこで、本番組を視聴して、自分が地域の一員として災害時に何ができるのかを考えたり、地域全体で支え合うことの重要性を考えたりする学習で活用することができます。

#### ● 教員の危機管理対応力の向上を目指して

教員は子どもたちに防災教育を指導する立場ですが、災害時にどのような対応を教員がとるべきなのか等、実践的に考えて備える研修は、どのくらい行われているのでしょうか。想定外の災害が起きた時、教員もパニックに陥り、正しい判断ができないことも考えられます。そこで、本番組を活用して、教員も防災小説に取り組んでみてはいかがでしょうか。教員の立場で、「もしも災害が学校で起きたら」と様々の状況を想定し、自分の気持ちや行動について考えながら書くと、危機管理対応力の向上を図る研修になります。



執筆者  
北海道石狩市立双葉小学校  
教諭 前多香織